



デジタル社会で上越の未来はどう変わる？
ストラットン恵美子(久比岐野)



問 地方創生に繋がるメタバース活用の取り組みについて市の見解を聞きたい。

答 メリットとデメリットを整理し、他自治体の有効な取り組みや運営手法等を参考に、調査・研究を行う。



問 デジタル地域通貨導入の考えは。

答 事業者や商店街、金融機関等関係者の意見を聞き取りながら研究していく。

問 デジタル図書館を新設してはどうか。

答 県と県内市町村において協働による電子書籍サービスの検討を始めた。当市も参画し、効果的で効率的なサービス導入を検討していく。

社会課題解決も視野に「道の駅」どう活かす？

問 道の駅を活用した当市の観光戦略と、新たな道の駅設置の考えは。

答 うみてらす名立は大規模改修や機能見直しを検討、よしかわ杜氏の郷は敷地内の緑地の有効活用や駅全体のコーディネートを検討、雪のふるさとやすづかは観光対応型の雪室を整備し、スキー場と連携強化している。それぞれの指定管理者や関係者、地域住民と連携し、各施設の特性を活かして市内外の利用者が「食」や「自然」、「体験」を楽しめる場所にしていく。現段階では新たな道の駅設置は考えていない。



道路整備事業 人口減少にどう対応？
宮崎 朋子(創風)



問 道路パトロールにおける事業者の人手不足にどう対応しているか。

答 従来の取り組みに加え、郵便配達職員から道路の不具合などの発見時に通報をいただく仕組みや、市民からのLINEによる通報（月に10件程）で迅速な対応を心がけている。

問 人口減少で交通量が減少し、今後の道路整備評価項目に影響が出るのではないか。また、実施に至らず年数が経過している地域要望を今以上に丁寧に取り、方策を提案することで、次代を見据えた道路計画策定を望むがどうか。

答 現状や課題等を的確に把握し、次期計画における整備基本方針や評価基準等の見直しを検討している。地域要望については、地元関係者へ現時点での地域課題を改めて確認し、整備範囲・規模の見直しや、代替案も含め実現可能な整備方法を示すなど、対応していく。

ホワイトアウトで孤立する集落への対応は？

問 市へ現状把握と方策の提案を望む。また、除雪計画では、この視点と情報の共有を望むがどうか。

答 地吹雪などの恐れがあるのは、市全体で150路線、約150kmあることを把握している。今後も市民への注意喚起と迅速な除雪作業で道路交通の確保に努めていく。



地域の諸課題について 市長に問う
木南 和也(久比岐野)



問 直江津屋台会館を積極的に活用すべきでは。

答 直江津屋台会館活用のサウンディング調査は、令和4年度に策定予定であった通年観光プロジェクトにおける直江津エリアの回遊の仕組みづくりとあわせ、必要に応じて実施すべきものと考えていた。しかし、通年観光プロジェクトは、地域住民と将来像を共有し、時間をかけて丁寧な議論を重ねて検討していくこととした。このため、今後、通年観光プロジェクトにおける検討の中で、サウンディング調査の必要性も含め直江津屋台会館の活用について、改めて検討していく。

問 シーサイドパーク名立の遊具の現状は。

答 ローラーライダーやアスレチック遊具などで腐食等が確認されたため、令和5年7月22日から当面の使用を禁止している。これらの遊具の修繕や更新には多額の経費を要することが判明したことから、慎重な検討が必要だと考えている。もとより、同施設は、うみてらす名立に近接し、市内外から多くの利用者が訪れる施設であるとともに、地元の名立中学校の生徒が花の苗植えや草刈り等の整備活動を実施するなど、地域住民にとっても思い入れが強い施設であると考えている。今後の修繕方法等の検討に当たっては、地域住民の声も聞きながら適切に対応していく。

